



- ③ 急速加熱 : 被加熱部分を短時間で加熱でき、製品の生産性を高めることができる。
- ④ 雰囲気加熱 : 不活性ガスや真空中での加熱が可能で、加熱材の酸化防止と、品質や歩留まりの向上が図れる。
- ⑤ 高温加熱 : 金属の溶解・焼結、炭素の黒鉛化など高温加熱に優れている。
- ⑥ 制御性 : 簡単かつ素早い温度制御、容易な起動停止といった優れた制御性を持ち、高い品質を維持できる。
- ⑦ コンパクトな炉熱容量 : 炉体と蓄熱量を小さくでき、エネルギー消費の抑制と熱応答性に優れている。
- ⑧ 現場の作業環境 : 燃焼炉と比較して、周囲への排熱や水蒸気が少なく、また汚染物質を放出しないために、クリーンな職場環境が維持できる。

エレクトロヒート技術が社会のイノベーションとなるためには上記の特徴を最大限に生かす工夫が必要になる。製品や技術は、企業のプロセス技術だけでなく最終製品であるプロダクトを含めたシステムで評価される方向にある。最終製品は、経済性だけでなく、製造、利用、廃棄のライフサイクル的な視点から効率性、機能性、安全性、環境性などにおいて、どれだけ優れているかが大切になる。また、グローバル化や情報化の進展によって、製品へのニーズも多様化し、かつその変化も早くなっている。異業種の組み合わせで新しい製品も生み出されている。そういった製品やシステムの開発は、すべての部門を抱え込むこれまでの大企業による体制では対応することが難しい。企業にはよりフラット化した体制が求められており、羅針盤となる機能を中心に、個々の活動は独立採算の組織で、必要に応じて異業種とも積極的に協力し合う活動が求められる。

エレクトロヒートセンターは、これまでは電力会社と電気加熱のメーカーが会員であった。今後は、社会のニーズに応える技術や製品を世に送り出せるように、多様な業際関係者あるいは大学や研究機関の会員を増やしていく必要がある。センターには、エレクトロヒートのイノベーションを創出するプラットフォーム機能が求められている。それには、会員増強に加えて、会員相互の情報交換やコミュニケーションを深めていく環境整備を一層、充実することも大切になる。